

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

| | |
|------|----------------------------------|
| 大学名 | 会津大学 |
| 整理番号 | B12 |
| 構想名 | 「心・技・体」三位一体による世界で活躍する革新的ICT人材の輩出 |

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

| | |
|---|--|
| (総括評価) B | 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。 |
| <p>(コメント)</p> <p>本構想は、世界で活躍し得るICT人材に求められる「心・技・体」を備えた人材育成を目指し、大学改革のための4つの基本プログラム（「学部・大学院一貫オナーズプログラムの創設」、「先進ICTグローバルプログラムの創設」、「技術革新・創業基礎・海外研修科目群の創設」、「ガバナンスの改善とグローバル化」）を中核としてグローバル教育を展開する意欲的な取組である。</p> <p>4つの基本プログラムについては、計画に沿った取組を着実に実施しているものと判断する。全学的な4学期制への移行を開始し、学部と大学院のカリキュラムの整合性を図ることにより、学部・大学院一貫オナーズプログラムの対象学生のみならず、全学生の短期留学・海外インターンシップへの参加を促す基盤整備が順調に進められている。また、国内外のICTビジネス社会に通用する人材の育成に向けて、米国シリコンバレーとの連携を特徴とする大学院のセミナー科目「ICTグローバルベンチャー工房」、学部科目のベンチャー体験工房、学部・大学院における海外及び地元でのインターンシップ等を提供している点や、財政支援期間終了後も本構想を継続するための自立的な取組を進めている点も評価出来る。</p> <p>一方で、先進ICTグローバルプログラム全英語コースを履修している学部の外国人留学生と大多数の日本人学生との共通の教養科目、ICT専門科目の授業を通じた交流の機会については十分に設けられているとは言えない。また、外国語力基準を満たす学生数は学部・大学院ともに数値目標を下回っており、特に学部学生の英語能力について、向上に向けた方策が求められる。さらに、日本人学生の海外留学経験者数は、短期留学プログラムの単位化等により学部では数値目標を達成しているが、大学院では消極的な目標であるにも関わらず、達成出来ない。</p> <p>地方の小規模公立大学が専門分野の強みを活かして国際化を進めている点は、先導的かつ挑戦的な取組として高く評価出来るものの、本構想が目標とする「世界に通用し活躍できる革新的ICT人材」の育成には、英語力強化のためのより一層の努力と工夫が必要である。今後、総合的な英語運用能力の養成に向けた全学的な教育体制の整備と対策が強く求められる。</p> | |